生まれ変わる谷山緑地
～緩衝緑地からみんなの緑地へ～

（前）鹿児島県 土木部 都市計画課　課長
（現）鹿児島県 姶良・伊佐地域振興局 建設部　建設部長　喜元（よしもと）　亨（とおる）

1.　はじめに

「谷山緑地」は，海岸を埋め立てて造成された木材・工業団地及び産業道路と背後の住宅地を遮断することによる，大気汚染，騒音，振動，飛砂等の防止や，緑地化による周辺地域の気温上昇の緩和などを目的として整備された緩衝緑地です。

全長約 4 km，幅は最大でも 70 m 程度で，産業道路に沿って南北に細長く帯状に広がっています。緩衝機能を重視して，密度の高い緑地となるよう樹種を選定，ヤシ類やクス，サンゴジュなどが植栽されています。

1971（昭和 46）年 3 月に永田川より北側が，1975（昭和 50）年 3 月に残る区間がそれぞれ都市公園となりました（写真－1）。

以来，地域住民から「グリーンベルト」として親しまれてきました。現在は，ウォーキングやランニング，グラウンドゴルフなど，主に地域住民の休憩･レクリエーション等で利用されています。

2.　半世紀の時が過ぎ…

植樹から 50 年が過ぎ，老木化や生育環境の悪化により台風時に倒木の危険性があるほか，大木化による道路空間や沿道状況とのバランスの悪化など，安全面や景観面で課題が生じています（写真－2）。

さらに利用者からは，「暗い」，「汚い」，「怖い」といった声も聞かれるようになり，ネガティブなイメージの公共空間となってしまいました。

また，この半世紀における社会経済情勢の変化

写真－1　開園当時の航空写真

写真－2　台風後の倒木

は目まぐるしく，隣接する工業団地には大型商業施設が立ち並び，住宅地側では，マンションの建設やJR谷山駅を中心とした土地区画整理事業により新しい街並みが創出されるなど，周辺環境が大きく変化しています（写真－3）。

写真－3　谷山緑地及びその周辺

他方で，国の「新たな時代の都市マネジメントに対応した都市公園等のあり方検討会」の最終とりまとめでは，新たな時代の都市をつくる緑とオープンスペースの基本的考え方として，「ストック効果をより高める」，「民との連携を加速する」，「都市公園を一層柔軟に使いこなす」という三つの観点が示されています（図－1）。

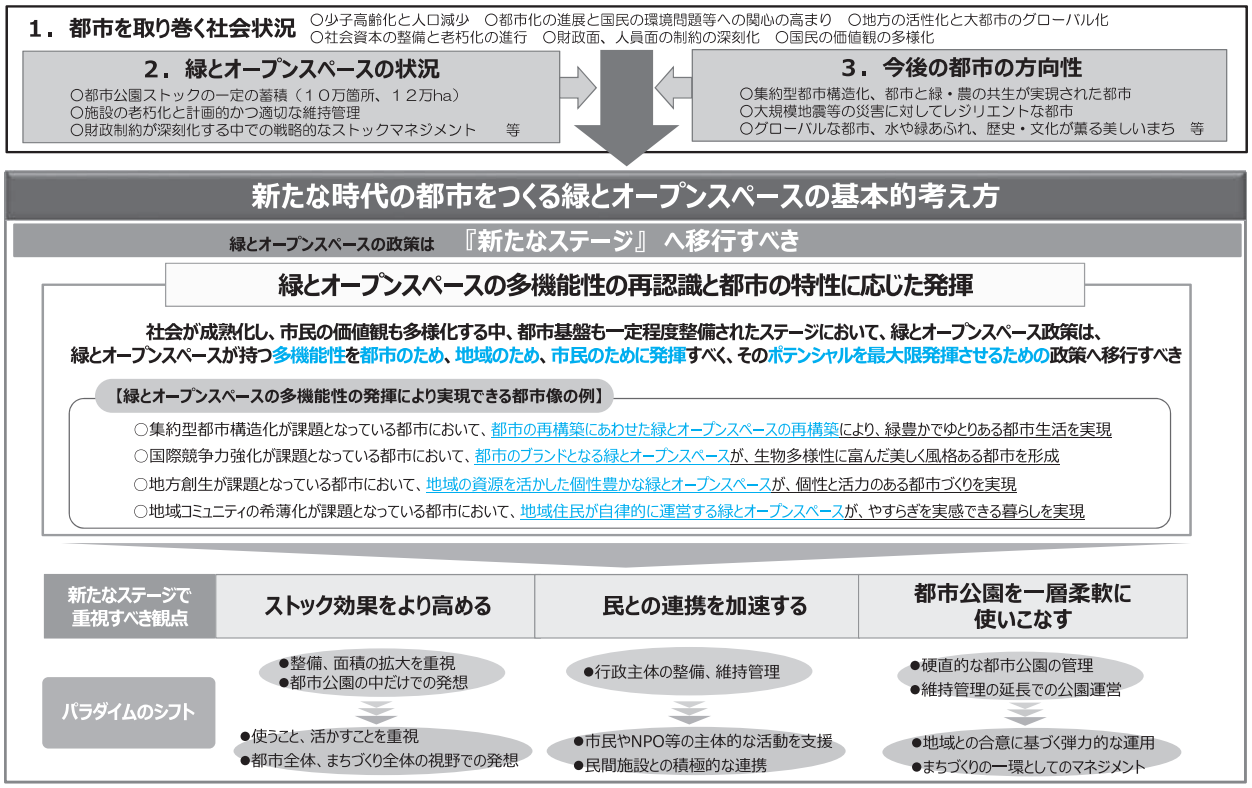
これら社会情勢の変化に対応するため，令和2年度に指定管理者，鹿児島大学，県の産・学・官からなる検討体制を構築し，緑地の再生と民間活力による新たなサービスの提供の二つを柱とした谷山緑地再生計画『グリントプロジェクト』をとりまとめました。

3.　谷山緑地再生計画『グリントプロジェクト』

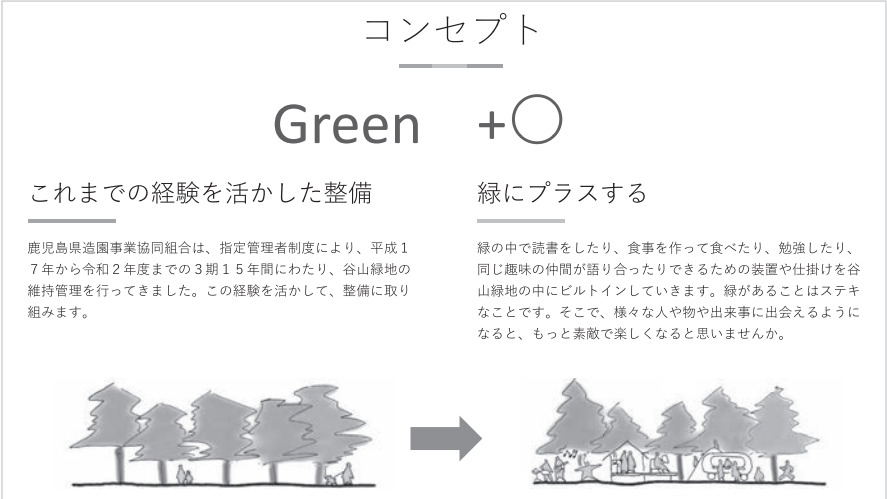
谷山緑地再生計画『グリントプロジェクト』は，緑［Green］に楽しい色々をプラス［＋○］する計画です。

これまでの緑地資源を生かしつつ，新たな機能を付加することで，たくさんの「楽しい」があふれた公園を構築します。

産・学・官の三者が連携しながら，公園の価値を重層化し再構築することで，県民の皆さまに新



図－1　新たな時代の都市マネジメントに対応した都市公園等のあり方検討会 最終とりまとめ 概要
（国土交通省ホームページより）



図－2　谷山緑地再生計画のコンセプト

しいサービスを提供し，緑あふれるパブリックスペースを中心に，人々が緩やかにつながることができる公園空間を提案していきます（図－2）。

冒頭で述べたように，谷山緑地は，全長約 4 km の細長い緑地ですが，道路や河川・水路で 14 のブロックに分断されています。この特徴を生かし，緑地の幅や利用状況，周辺の土地利用等を踏まえ，南側から「緑を楽しむ」エリア（12 ～ 14 ブロック），「緑を愛でる」エリア（8 ～ 11 ブロック），「緑を吸込む」エリア（1 ～ 7 ブロック）という三つのエリアを設定しました。緑に付加する「モノ」，「コト」を変化させることで，それぞれの場所に個性を作り出していきます（図－3）。

「緑を楽しむ」エリアは，比較的面積の広いブロックが多く，周辺には戸建て住宅が広がっていることから，「緑の中に点在する施設やデッキで家族や友達や仲間たちと語り合ったり，食事をしたり，さまざまな活動ができる場所」を目指しています。

「緑を愛でる」エリアは，周辺でマンションの

図－3　谷山緑地の三つのエリア

建設が相次いでいること，芝生広場や遊具があること，子供連れの若い家族の利用が多いことから，「緑の中で立ち止まり，少し落ち着いて，四季が織りなす緑の表情を愛でる場所」を目指しています。

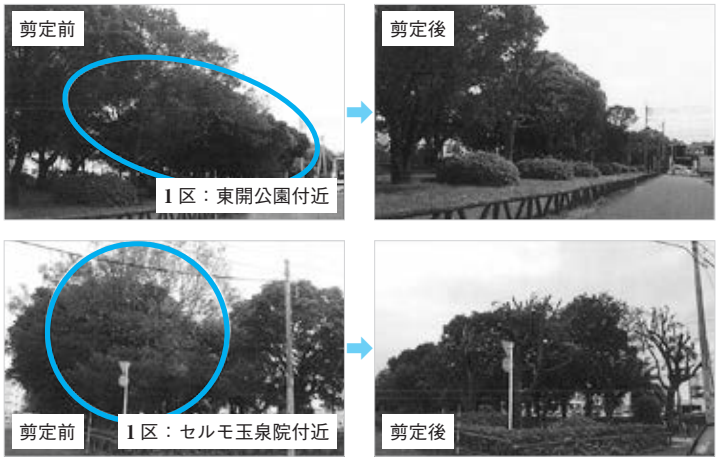
「緑を吸込む」エリアは，幅が狭く，広場的な利用が難しいので，「緑の中を散策し，緑が作り出す新鮮な空気を胸いっぱいに取り入れたり，ペットと一緒に遊んだりできる場所」を目指しています。

当計画をベースに，令和３年度から谷山緑地のリニューアルを開始しており，地元のコミュニティ協議会への説明と意見交換，民間事業者との対話等を実施した上で，利用者の少ない９ブロックから整備に着手しました。

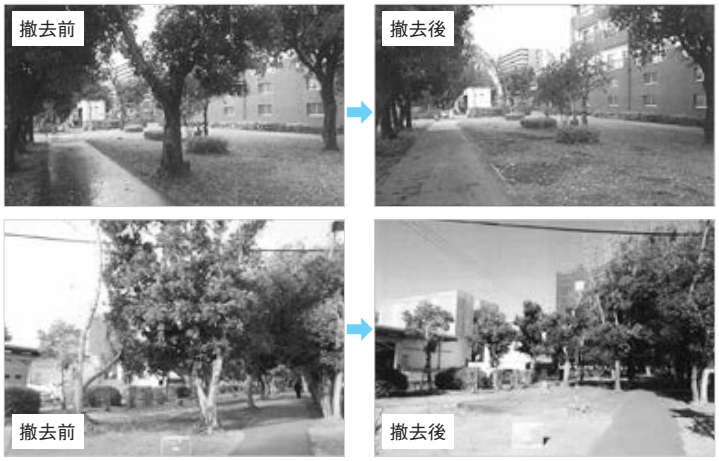
4.　緑の再生

半世紀の時を経て立派に成長した多くの高木は，残し維持していく方針です。一方，衰弱や腐朽，損傷等により樹体構造が痛んでいる樹木は危険である上，密度が高く緑地内を暗い状態にしています。防犯の観点や将来の樹木の成長も考慮して，伐採や植替えを行い安全な環境を整えることとしています。

また，園路沿いに生け垣のように植えられたツツジ等の低木が，人の流れを止める配置になっており，さらに虫害やカヤ，ススキなどに侵されて



写真－４　剪定状況



写真－５　伐採状況

図－４　緑の再生計画

いることから，低木を刷新し，見通し良く開放性のあるランドスケープデザインに変えていきます。

谷山緑地では，造園建設業の団体である鹿児島県造園事業協同組合が 4 期 18 年間にわたり指定管理者として管理運営を行っており，これまでの経験や専門的知見を生かしながら，令和 3 年度から緑の再生に取り組んでいます（図－4）。

まず，地元のコミュニティ協議会との意見交換等において，近隣住民から要望があった枯れ木や越境木の剪定・伐採を実施しました（写真－4，5）。併せて，樹木の健全性を調査し，高木 3,243 本のうち，衰弱や腐朽などで異常気象時に倒木の恐れがあるもの，隣地や道路に枝がはみ出て支障があるものなど，472 本を抽出しました。

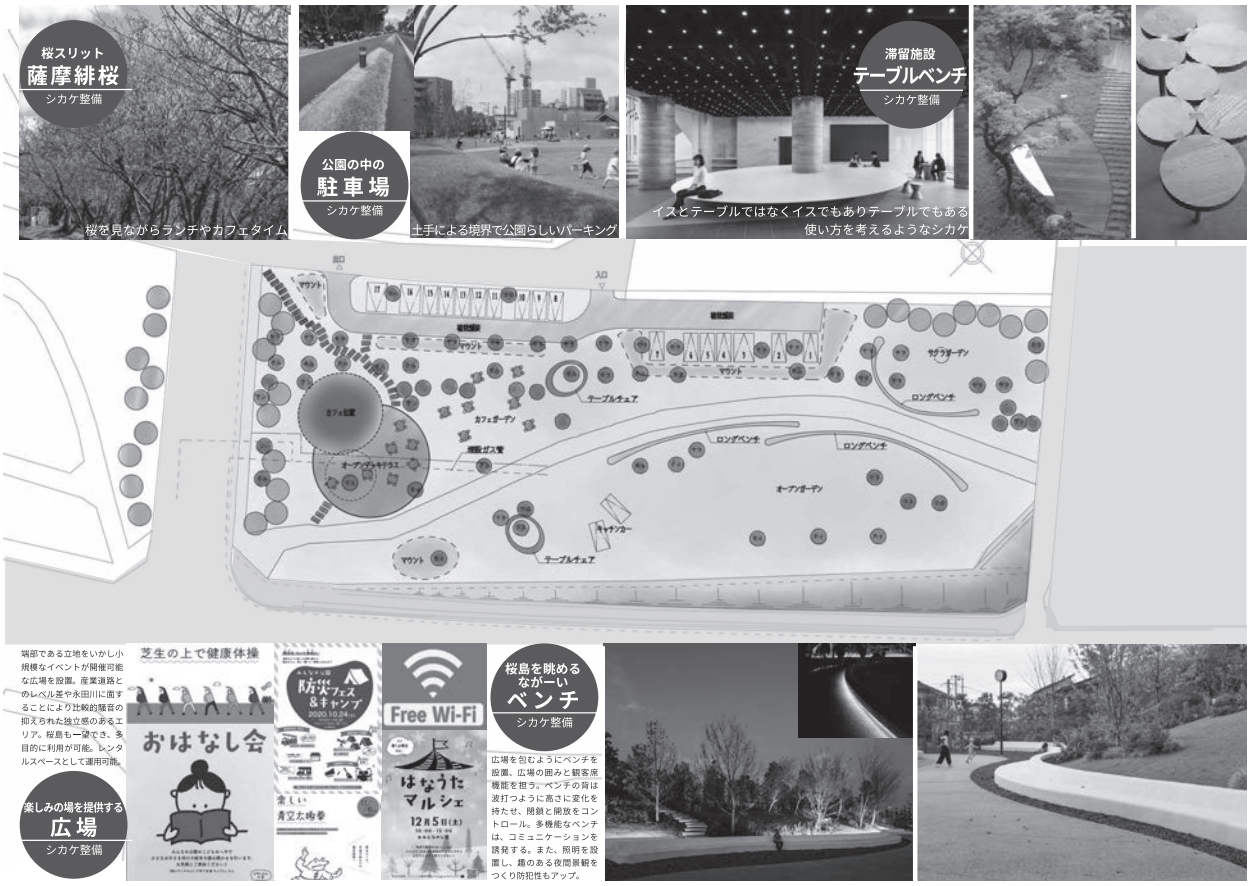
状況調査で抽出した樹木については，緊急性の高いものから，更新，剪定，補植を行い，低木の刷新によるオープンスペースの拡大も順次進めていきます。

5.　緩衝緑地から「みんな」の憩いの場へ

グリントプロジェクトのもう一つの柱は，民間活力による新しいサービスの提供です。

谷山緑地は，「グリーンベルト」として長年地域住民に親しまれてきた一方，飲食や物販などの便益施設がなく，遊具や休憩所も老朽化しています。緑地の再生にあたっては，これまでの緩衝緑地としての機能に加え，より多くの利用者にゆっくりと滞在してもらえる環境づくりが必要です。

グリントプロジェクトを具現化するにあたり，指定管理者・鹿児島大学・県の三者で，住宅メーカーや日本バーベキュー協会など，さまざまな企業・団体とのサウンディングを行いました。また，緑地の利用状況や地域のコミュニティ協議会からの意見，電気・水道といったインフラの整備状況など，さまざまな角度から検討した結果，「緑を愛でる」エリアの 9 ブロックから再整備に



図－5　9 区整備イメージ・写真（参考）

写真－6　最近の利用状況

着手することにしました。

図－5は，具体的な整備内容に関して，鹿児島大学から提案された整備イメージです。

9区は，JR谷山駅から徒歩15分圏内に位置しており，周辺の住宅地には共同住宅が多く，若い世代の居住率が高いエリアにあります。このため，「子育て世代が楽しい公園」を目指し，子供連れ利用者をサポートする施設として，オープンデッキを備えたカフェを核に，オープンな広場とロングベンチ，テーブルベンチ等が提案されています。また，樹林の間を利用した駐車スペース，市道や河川沿いへの「薩摩緋桜」による“桜スリット”の植栽など，緑地としてのイメージを損なわないよう配慮されています。

これをベースに，便益施設（カフェ）及びその付帯施設（指定管理者），公園利用者のための駐車場，園路，園地，遊具，休憩設備等（県）を整備しています。

カフェ及び付帯施設は『グリントカフェさんようはうす』として令和5年3月にオープン，園路及び公園駐車場も同時期に供用を開始しています。最近は，数多くの子供連れや若いカップルが公園を楽しんでいる姿を見かけることも多く，整備をきっかけに，さまざまな世代が集う「みんな」の憩いの場に変化しつつあります（写真－6）。

6.　おわりに

鹿児島県は，九州の最南端に位置し，南北600kmの広大な地域に広がっており，屋久島と奄美大島・徳之島という二つの世界自然遺産をはじめとする豊かな自然と温暖な気候に恵まれた地域です。全国和牛能力共進会で2大会連続で日本一に輝いた鹿児島黒牛，黒豚，ブリ，お茶など魅力的な農林水産物・加工品が豊富で多彩な食材の宝庫でもあります。

雄大な桜島や霧島，指宿などの温泉地，美味しい食事と本格焼酎で癒やされてみませんか。歴史，文化，伝統にも恵まれた「南の宝箱 鹿児島」でお待ちしています。